新著紹介

天台四教儀講話

境野黃洋著

日本佛教を研究せんとする者は先づ大體天台學の如何を知つて置く必要がある、而して天台の學たるや、教典は浩瀚であり、思想は深遠である、門に入らんとするものゝ常に望洋の嘆の發する處である、その浩瀚なる教典、その深遠なる思想を極めて簡單にしかも要領的に組織し説述したものゝ隨一はかの高麗の僧諦觀の天台四教儀であつて、實にこの書は古來天台學は勿論、一般佛教學の入門書と見做されて居る位である、所がこの四教儀亦初學者には可なりに難解なものである、固より之には和漢數多の註釋書があり、その註釋書に又孫曾孫の註釋書が數知れずあつて、專門家には研究の資料は豐富である、併しその一々でなくともその主要なものゝみを參考するとしても、その事それ自身が既に初學者には輕い負擔だとは思へない、況んやその無數の註釋書が亦復細に入り微を極め、煩瑣その極に達し、その要領を得るに苦しまざるを得ざるに於てをやである。

本講話は思ふに恐らく是の如き事情に鑑みて物せられたものであらう、今その内容を見ると、專ら通俗を旨とし、全く初學者のためのものである事が窺はれる、諸種の註釋特に蒙潤の集註を參照し、從來行はれた樣な煩雜な科文を避け、一々の本文を順次その内容に依りて明かに區劃し、その讀方を訓譯して原文と並び揭げ、術語や用句の一々には天台の學説を離れざる範圍に於て、著者の見解を加へ、時々通俗な譬喩をも交へて解釋を施し、出來得る限り現代的の言葉を以て一般の意味を通解し、説明せられてある、簡にして要を得た手際は明かに認められる、從つて初學者に對する通俗講義として先づ成功した方だと認める、私は著者の勞を多とせざるを得ぬと思ふ、そして可なり詳細な教義索引と梵語索引とが附け加へられてあるが、若し之を利用すれば、初學者には傍ら一小佛教辭典の用をなすものとも思はれる、著者の忠實と親切とに對し感謝の意を表せねばならぬと思ふ、天台學は勿論、一般佛教を研究せんとする獨學の初學者に本書の一讀を御勸めしたい。

最後に附け加へて置きたい事は、梵語索引中の誤植であるが、之には今一度位校正の必要があつたのではなからうか、(勿論梵語をローマ字で書き表はす事には多少の誤植は免れないが)、今二三目に着いたものを擧げると、Vrihatpala(廣果天)は Vrihatpha'a. Kanpa(劫)及び Vimana(維摩)のvは.四天王天の四に當る Chatru は Catur. 而して Akanista(色究竟天)は Akanistha の夫々誤植ではあるまいか。

東京丙午出版社發行、和裝菊版四一八頁、索引一三頁、
定價壹圓五拾錢

(本田義英)